

アカツムタケ *Pholiota astragalina* (Fr.) Singer

担子菌門 Basidiomycota ハラタケ亜門 Agaricomycotina ハラタケ綱 Agaricomycetes
ハラタケ目 Agaricales モエギタケ科 Strophariaceae スギタケ属 *Pholiota*

供試標本

茅野市八ヶ岳総合博物館標本 F-0551, 2018 年 9 月 18 日, 長野県諏訪郡原村 (御小屋尾根)、市川浩久採集

肉眼的特徴

かさは 3-3.8 (-4.6) cm、中央が隆起したまんじゅう形で表面はあんず色 (朱赤色)、周辺部は淡色。平滑で吸水性はなく湿時わずかに粘性がある。縁部には幼菌時白色の膜片が付着している。肉は薄く淡い朱赤色で充実。わずかに菌臭があり苦い。ひだは湾生から直生、やや上生しやや密。全ひだは 48 枚前後、小ひだは 1 から 3 枚で黄色味を帯びる。柄は 6.5-8.5 × 0.8-1.0cm で円筒形、根元はわずかに膨らむ。上部は淡い朱赤色で下部は淡いさび色。表面にはわずかに繊維状のささくれがあるがつばはない。肉は充実し中実から中空で変色性はない。胞子紋は淡いさび褐色。

顕微鏡的特徴

熱乾燥標本を用い観察には 3% KOH を使用、一部にコンゴレッドを追加した。

かさ表皮は平行菌糸被で黄褐色、クランプがある。上層は幅 1.4-7.2 μ m、平均 3.7 μ m (n=24) の数層の菌糸からなりやや粘性がある。下層は幅 9.3-27.6 μ m、平均 16.8 μ m (n=10) の垂球形から楕円形、長楕円形の菌糸からなる。縁シスチジアは類便腹状で 28.7-35.0 × 5.2-5.8 μ m (n=5)。側シスチジアは棍棒状で先端は乳頭突起をともない 42.8-63.4 × 12.1-17.1 μ m (n=5)、クリソシスチジアである。担子器は円筒形からやや棍棒状で担子小柄を除き 18.2-26.6 × 5.0-8.0 μ m (n=41)、担子小柄は 3.1-6.0 μ m (n=21) で 4 胞子性。担子胞子は楕円形から長楕円形で (5.8-)6.3-7.0(-7.3) × (3.6-)4.0-4.4(-4.7) μ m (n= 50)、縦横比 (1.42-)1.49-1.70(-1.90)、縦横比平均 1.60、淡褐色で平滑、薄壁で明らかな発芽孔はない。

生態的特徴

コメツガ、ウラジロモミの針葉樹林内、枯れた針葉樹の切り株側面等に束生から群生、または単生。

ノート

供試標本は文献 1 では子実体の大きさや色調、胞子の大きさや生態が概ね一致した。文献 2 では側シスチジアの大きさが 20-37 × 10-13 μ m と本標本に比べて小さいがその他は概ね一致する。諏訪地方では亜高山帯を中心に普通に見られる。

参考標本

F-00055, 2015 年 9 月 19 日, 長野県茅野市桜平; F-00198, 2016 年 8 月 20 日, 長野県茅野市北山, 藤森政明採集; F-00285, 2017 年 8 月 24 日, 長野県茅野市北山, 中島年雄採集; F-00495, 2018 年 7 月 15 日, 長野県諏訪郡原村, 市川浩久採集; F-00551, 2018 年 9 月 18 日, 長野県諏訪郡原村, 市川浩久採集; F-00618, 2018 年 10 月 21 日, 長野県諏訪郡富士見町立沢, 市川浩久採集。

- 文献 1 Imai S (1938) Studies on The Agaricaceae of Hokkaido. II. Journal of the Faculty of Agriculture of the Hokkaido Imperial University. 43 (2) :1-378
2 Breitenbach J, Kränzlin F (1995) Fungi of Switzerland, Vol 4. Agarics, part2. Mykologia Luzern, pp322-323

担当 井村悦子、上原妙子、上原裕雄、小山明人、齋藤和春、齋藤雅光、藤崎弘子



図1 子実体



図2 発生状況

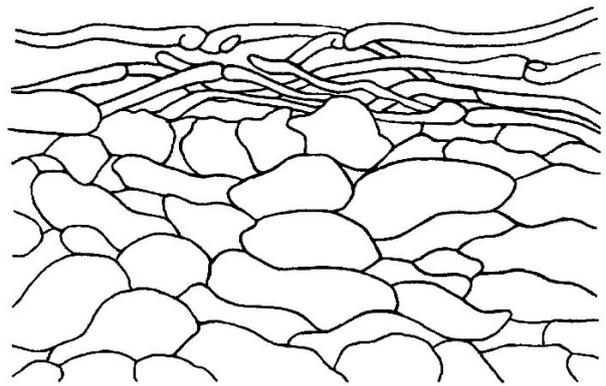


図3 かさ表皮

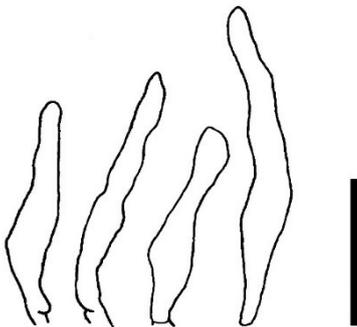


図4 縁シスチジア

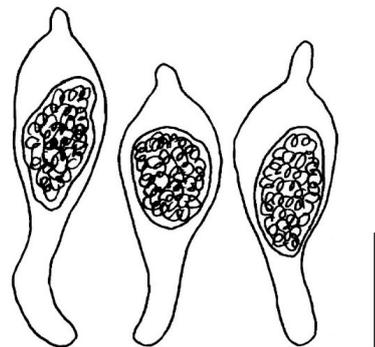


図5 側シスチジア

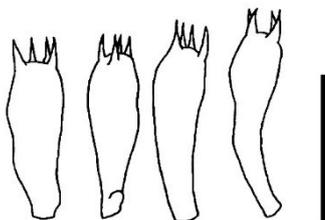


図6 担子器

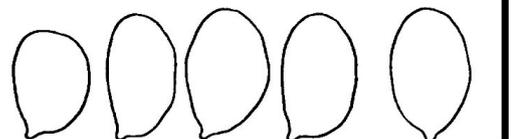


図7 孢子

スケールバー 図3 50μm、図4,5,6 20μm、図7 10μm